

第6回 気づきのレベルアップ

2007年1月13日

有限会社 マネジメント・ダイナミクス

小倉 仁志

jin-ogura@management-dynamics.co.jp

職場の気づきは「日報」から見直せ！

ほとんどの会社が、会社方針や職場の取り組みが過去と変わってきているにもかかわらず、日報については10年から20年間変えていないという状態ではないでしょうか。

そのため、日報はただ単なる形だけのものになってしまい、書く側も見る側も雑な取り扱いになっていて、あらためて中を見ると「なんだこりゃ！」といった言葉がすぐに出てくるくらい、全く使い物にならないものになってしまっています。

使い物にならないものを延々と続けていても、それこそ時間や紙のムダです。

そこで、一体、日報は何のためにあるのか、考えてみましょう。

本来の目的は、現在の職場の悪さ加減を、または異常の兆候を、さらには重要事項の進捗を、書く側と見る側のお互いが共有化するためにあったのではないでしょか。

そうなってくると、方針や取り組みが変わればおのずと日報の書式も変えていかなければ(もちろん変える必要のないところもありますが)組織として一枚岩になることができません。

一枚岩になることができなければ、どんな取り組みをしたところで、またどんな教育をしても、それは一時だけの話ということになってしまいかねません。

ぜひ皆さんも、まず職場の日報をあらためて見ることから始めてください。

そして、そこ(今の日報)から何が見えてくるのか、何が見えてこなければならぬのか、について全員で検討しましょう。

その上で日報の書式を見直す取り組みを進めていきましょう。

そうすることで、職場の「気づき力」を上げるための基盤の一部が出来上がっていくはずですよ。

以上